

北京におけるコミュニティ主体型（普惠型）幼稚園を作る

東洋大学大学院国際地域学研究科国際地域学専攻博士前期課程

3810120005

楊 ユ シ

BUILD A NEW TYPE OF KINDERGARTEN (BENEFIT THE CHILD WELFARE) IN COMMUNITY OF BEIJING

YANG YU XI

The one-child policy is the population control policy of China. We should admit that one-child policy has been successfully controlling the population in China, but we also recognize that one family one child bring us a lot of social problems.

The parents always give the best things to their child as they can, but they usually don't have time to talk with their child. Although the child has a lot of toys he can play with, he has little chance to get out to have a look, or to know the world by himself. When those one-child grow bigger, some of them were founded that they have difficulty to communicate with others, and some of them were founded that they are so selfish that they even don't know what the meaning of share.

As a result, most parents decide to send their child to go to kindergarten. They hope their child can make friends at kindergarten, or learn something they want to with their classmate there. But the parents find that it is difficult to choose a kindergarten for their child. The cost of kindergarten is too high to pay, the limited resources are not enough to carry all the needs from the parents and the service of the kindergarten is not very comfortable as the parents think.

The government of Beijing has made a plan which is called 「ACTION PLAN FOR PRESCHOOL EDUCATION (2011~2013)」 to solve these problems in 3 years. So I focus on the plan and study the successful cases of kindergartens in Japan, try to find a better way to make the new type of kindergarten well be build.

Key words: kindergarten, preschool education, community, Beijing, power of citizens
キーワード: 幼稚園, 学前教育, 地域コミュニティ, 北京, 住民の力

<論文構成>

第1章 序論

1. 1 研究の背景
1. 2 研究の目的
1. 3 研究の方法
1. 3. 1 調査対象地域の選定
1. 3. 2 論文の構成
1. 4 用語の定義
1. 5 先行研究のレビュー
1. 5. 1 先行研究から得られた知見
1. 6 本研究の位置づけ

第2章 幼稚園に関する歴史及び幼稚園教育

2. 1 幼稚園の父・フレーベルと世界初の幼稚園
2. 2 世界の幼稚園の歩み
2. 3 世界の幼児教育
2. 4 まとめ

第3章 日本の幼稚園の現状及び現地調査

3. 1 日本幼稚園の現状
3. 2 日本の幼稚園に関する進展
3. 3 日本における現地調査
3. 3. 1 東洋大学附属幼稚園——京北幼稚園
3. 3. 2 茨城県における私立幼稚園及びコミュニティ子育て支援施設
3. 4 保育所・幼稚園・小学校との連携
3. 5 まとめ

第4章 中国の学前教育及び北京における現地調査

4. 1 中国の学前教育の歴史及び現状
4. 2 北京の学前教育現状及び子育て支援政策
4. 2. 1 北京の学前教育現状
4. 2. 2 北京市学前教育行動三年計画 (2011~2013)
4. 2. 3 学前教育システムに関する実践
4. 3 北京のコミュニティにおける現地調査

4. 3. 1 京鉄家園コミュニティにおける現地調査
4. 3. 2 北京市豊台区幸福街コミュニティにおける現地調査
4. 4 政府のコミュニティ建設
4. 5 まとめ

第5章 北京における主体型（普惠型）幼稚園をつくるに関するアンケート調査及び分析

5. 1 調査対象地域の概要
5. 1. 1 Aコミュニティ
5. 1. 2 Bコミュニティ
5. 1. 3 Cコミュニティ
5. 2 アンケート調査について
5. 2. 1 調査の実施背景
5. 2. 2 調査の実施概要
5. 3 アンケート結果の分析
5. 3. 1 データの分析
5. 3. 2 オープンクエスションからみる結果
5. 4 アンケート調査への検討
5. 5 まとめ

第6章 結論

6. 1 中・日地域コミュニティ子育て環境づくりの動向
6. 2 北京市コミュニティ主体型（普惠型）幼稚園の特性
6. 3 幼稚園「圏」への考え
6. 4 今後の課題
6. 4. 1 コミュニティ主体型（普惠型）幼稚園をつくるへの課題
6. 4. 2 本研究における課題

引用・参考文献

- アンケート調査票（日本語）
アンケート調査票（中国語）
謝辞

<要約>

中国は「一人っ子」という政策がある。1979年から今まで「一人っ子政策」により、中国の人口抑制に成功したとはいえるが、その一方でまたほかの問題も抱えている。一組の夫婦に一人の子供しか生まれないため、子供は家族全員（両親と祖父母の6人）に注目され、大人からの愛情を一身に受け育った。その結果、ほかの人とコミュニケーションうまくできなく、わがままな子供が増えてきたなどの社会問題がクローズアップされている。

最近、北京では子供にとって幼稚園が必要だと思っている親が増えている。幼稚園で自分の子供とほかの子が遊んだり、一緒に何か勉強したりするのは、子供の成長に役に立つと思っている。しかしながら、北京は経済が発展するにつれ、人口も急速に増加してきた。そのため、幼稚園が足りない状況になってしまっている。子供を幼稚園に行かせようにも行かせられない親たちによると、戸籍制度や高額の入園費が問題だと言う。

2011年、北京政府はこの問題を解決するために、コミュニティにおける普惠型幼稚園をつくと発表した。つまり、身近なコミュニティを生かし、値段が安く、戸籍を問わない、サービスがよい幼稚園をつくるというものである。

私は教師として、子供を幼稚園に行かせることに賛同する。将来ある子供のために、社会やコミュニティが力を合わせ、このような幼稚園をできる限り早くつくるべきだと思う。しかし、新しい幼稚園はどのように作ればよいか、政府はどうやってそれを支えるのか、問題は山積している。

一方、先進国としての日本には国公立幼稚園と私立幼稚園があって、皆は自分の状況を考え、選ぶことができる。また、政府からの児童手当があるので、それで親が家計を補え、子供を幼稚園に行かせるお金を心配なくていい。その上、日本は地域によって、地元の幼稚園はそれなりのやり方をしており、幼稚園は子供と家庭とコミュニティに繋がっていて、コミュニティとの連帯ができています。

以上のようなことから幼稚園教育を支える日本の子育て政策やコミュニティづくりを研究し、北京における新しい形の幼稚園とはどうあるべきかなどを課題と考える。

本研究の目的を以下の4点とする。(1)日本の幼稚園や子育て支援施設など保育環境としての地域資源のあり方についてハード面だけではなく、ソフト面の視点から現地調査やヒアリング調査を行い、北京における普惠型幼稚園の施設整備、子供にいい環境をつくるための資料を得る。(2)北京市を対象として公私立幼稚園をはじめ今後さらに増加が予想される普惠型幼稚園を取り上げ、これまでの結果を踏まえた上で、北京の幼稚園の実態とあわせてその周りのコミュニティ資源の利用状況を把握する。(3)北京における普惠型幼稚園をつくるため北京の現住民にアンケート調査を行い、ニーズを把握する。(4)公私立幼稚園を問わず、日本の成功した経験を活かし、北京の子育て環境を改善する。

本研究では現地調査対象を東京都また茨城県とし、各地域の福祉政策及び子育て支援プログラムなどの研究を行い、各コミュニティなりのやり方を明らかにする。さらにご協力が得られた幼稚園また子育て施設へのヒアリング調査に基づき、日本の保育施設の現状を明らかにし、今日本の子育て支援施設に関することについて考察をまとめる。特に、私立幼稚園のことが参考になり、日本の成功した経験を学ぶ。

そして北京のコミュニティの状況またコミュニティにある幼稚園を考察し、北京の現状を把握する。さらに北京において代表的な地域コミュニティ3つを選び、住民にアンケート調査を行い、ソフト面の視点から住民にそれぞれのニーズを伺い、分析する。

文献調査では北京市における幼稚園の現状また普惠型幼稚園への展望について、2011年北京市が実施した「北京市学前教育三年行動計画(2011年～2013年)」を先行研究にした。また、北京市教育委員会の資料及び北京統計局のデータ等を調査し、北京市における昔から今まで幼稚園に関すること、今北京の学前教育環境を把握した。一方、日本の場合は主に東京都の幼稚園のケースを研究した。特に日本の文部科学省・厚生労働省の幼保連携推進室の「認定こども園」を先行研究として取り上げ、日本の子育て環境に関する資料また文

献等を研究し、日本の成功した経験を学んだ。

現地調査では中国の北京、日本の東京都また茨城県において現地調査を行った。まず北京において、公立幼稚園と私立幼稚園に行き、ハード面の調査だけではなく、幼稚園の教師にヒアリング調査も行った。また、北京市内代表的なコミュニティ3つを選び、そちらに住んでいる住民たちにアンケート調査をした。さらに、1つのコミュニティ委員会のリーダーの話を伺い、委員会議に参加でき、そちらの委員からの話を記録した。日本の場合、調査地域は東京都と茨城県を選び、私立幼稚園やコミュニティにある児童館、またコミュニティ福祉会館などに行き、ハード面の記録調査及び幼稚園の園長、会館のスタッフの話を伺い、調査を行った。

日本と中国の幼稚園また育児施設などに関するケースを研究した結果からみて、これから地域コミュニティ子育て環境づくりの動向がうかがえる。(1)日本の幼保一元化と中国の学前教育システム建設からみて今後中日両国とも幼児教育は0歳から小学校入る前に一貫していくことがあげられる。(2)東京都また茨城県においての現地調査と北京市のコミュニティでの現地調査からみて地域社会において、子どもの成長のため、子育て環境づくりに相互に協力することがみられ、幼児教育に対し住民の関心が高いことがあげられる。

(3)日本の子ども園についてのあり方や中国の地域コミュニティ主体型(普惠型)幼稚園についての様々な実践からみて、今後、幼稚園の役割として子どもが預けられる場所だけではなく、親のニーズに対応してサービスの拡充すること、コミュニティ住民が集まってコミュニティ活動を行うことがあげられる。(4)子どもの教育に責任をもつのは学校だけでなく、地域社会や学校、行政、企業なども力を合わせ、子育て家庭を支え、社会全体で子育てや家庭教育を応援していくことがあげられる。

コミュニティ普惠型幼稚園を通し、コミュニティにある人々とのふれあいによって子どもの成長に経験ができ、コミュニティで子どもの社会性の養成することも期待できる。幼稚園を中心にし幼稚園圏を創って地域コミュニティをカバーすることによって、親が安心、安全なコミュニティで子どもを育てることが実現できると結論にした。
